



生涯学習フェスティバル

主催/津奈木町教育委員会



卒業は飛躍へのステップ

毎年のことながら、三月は一年をとおして十二月につぐ大きな節目になるようですね。なんといつても三月は「卒業」というイメージではないでしょうか？

卒業の思いはそれぞれ異なつた感想があると思います。

保育園、幼稚園等でも、それぞれ園児なりに節目をつけることができるようになっています。社会教育の場合でも生涯学習フェスティバルとして発表会が文化センターであります。上の写真は昨年の生涯学習フェスティバルにおいて小学生が発表した「舞鶴城物語」の一コマです。小学生にとっては卒業時の良き思い出になるかも知れません。繰り返し繰り返し指導を受けたことがきつと印象深い卒業後の話題になることでしょう。

一言

「故郷は遠くにありて想うもの」と言う言葉が有るが、いざ津奈木に帰ってみると我々の少年の頃とくらべると大変かわり大きく見えた山河も小さいと感じる。津奈木町役場も昔は海だった所。夏には男島の周りを泳いで一周した記憶が有る。家々も新しい家が目立つ、橋も木の橋がコンクリートに変わって何かも近代的に成っている。また新幹線が走り高速道路も何年後かに開通するらしいとのこと、昔と変わってはいないのは重盤岩と矢城と眼鏡橋位か？いやまだ有ったそれは人と人との温かい人情だ、昔の大人は目が優しい眼差しだった様な気がする。現在は世の中の変遷が急速すぎる。また特に感じるのが子供達の数が少ないのには心を痛める人々が多いのではないだろうか？若い人達が津奈木に踏みとどまって昔の様に子供達の声があちこちから賑やかに聞こえて来る津奈木に成る事を願うことは無理だろうか？一学級五十人時代を望むのは私だけではないだろう。

町中夢人

子ども美術館 (42)

(十八年度文化祭奨励賞)



平国小3年 平野 愛与 赤崎小3年 高木 朋美 平国小1年 はまだ ていあら

津奈木町へきて半年たちました。



こんにちは。津奈木町のほとんどの人がもう私のことを御存知だと思いますが、知らない人のために、改めて、私はサラと言います。津奈木町のALTです。私は半年前に日本に来ましたが、まだ来たばかりのような気がします。すべてのものがまだ新しく感じ、そして私にとってはめずらしいものが多くあります。まだたまに寂しく感じることもあります。

私に強い印象を与えてくれるのは町の人々です。とても親切で寛大で私は絶対に忘れられないと思います。私が日本語がよく話せないにも関わらず、とてもよく御世話をしてくれました。私の質問に答えて下さるだけでなく、自分の用事を放ってまで私を助けてくれます。

料理が上手でない私のためにいつも料理をわざわざさもつてきて下さったり家に招待して頂いたり、私の家の庭に花を植えて下さったりゴミの捨て方まで教えて頂きました。私は本当にみなさんに感謝しています。ありがとうございます。ごさいま

(訳 津中 有田教諭)

平成18年度 津奈木町 (御案内)

生涯学習フェスティバル

開催場所 つなぎ文化センター

発表部門 3月4日(日) 13:00開演

展示部門 2月28日(水) 9:00→17:00

→3月4日(日) ※ただし4日は16:00まで

出演団体 韓国語教室、健康太極拳教室：昼の部、健康太極拳教室：夜の部、3B体操教室、健康ダンス教室、大正琴教室、コールつなぎ、染竹棒踊り保存会、平国六方踊り保存会、民謡四季の会、絵画教室、リフォーム教室、パッチワーク教室、陶芸教室、ちぎり絵教室、津奈木押し花会、ガーデニング教室、各小中学校

Hello! I think most people in Tsunagi already know who I am but for those of you don't my name is Sarah and I am the ALT in Tsunagi. I came to Japan six months ago but it still feels like I only just got here. Everything is still so new and different for me and I still feel a little out of place. The thing that has made the strongest impression on me is the people. The kindness and generosity this town has shown me has been overwhelming and is something that I will never forget. Despite my lack of Japanese complete strangers have taken it upon themselves to take care and look after me. Not only have they answered all of my questions and concerns but they have gone out of their way to help me. Upon the discovery of my inability to cook, people have constantly offered me food. People have welcomed me into their homes, shown me around, planted flowers outside my house and even taught me how to sort out the garbage. I really appreciate everything that everyone has done for me and I will be forever grateful. Thank you!

三月行事予定

●卒業(園)式
中学校 13日(火)
各小学校 22日(木)
幼稚園 23日(金)
保育園 29日(木)

文化講演会

3月3日(土)
午後7時開演
ひとつしかない命
「リトルの涙」
講師 木藤潮香(保健師)

娘・亜也さんが十五歳で脊髄小脳変性症という難病に冒され、二十五歳の若さでこの世を去るまでの十年間の看病体験や命の尊さを話して頂きます。

編集後記

早いもので、十八年度も終わろうとしています。公民館報も三百七十三号を数え、半世紀以上の歴史を重ねてきました。次号からは、町報と合併することになります。皆様方に読んでいただける紙面づくりに心がけ、頑張っていきたいと思っております。引き続きご愛読をお願いします。

地域福祉ネットワーク

津奈木の福祉は中尾から

中尾地区では平成十八年から二年間、地域住民の福祉向上のために活動に取り組んでおられます。

本事業の趣旨は、地域におけるボランティア活動、住民の福祉活動への支援、住民が相互に協力し、要援護者等に支援を行う活動として、芦北地域振興局・津奈木町住民課・社会福祉協議会との連携による福祉活動の取り組みです。



住民茶話会

特に、今年はボランティアとして花だんを作り花いっぱい地域にして、子どもから老人まで地域住民同士による助け合いを展開されています。

段取りの中心には、地区老人会長（緒方孝光氏）区長（谷口徹氏）の両氏が奔走西走されておられるようです。

両氏共に語っておられたことは、「連絡をすれば必ず協力して下さる」といっておられました。人集めが成功の秘訣です。

昨年、球磨郡錦町に出向いて交流研修会を実施されました。楽しい交流会で有



若い子どもも一緒に

意義な研修だった、と言っておられました。地域のことは地域で支え合っているという関心が出てくるのを期待されているようです。

今後の社会福祉の活動の輪が広がることを期待し見守りたいものです。

食育シリーズ

徐々に家庭へ浸透

昨年、公民館報に於いて「食育」シリーズとして四回ほど掲載した記事を読まれた感想、給食、献立表等、食育に関する「お便り」の反応について給食センターからのお尋ねがありました。早速、幼稚園の保護者に感想をお聞きしたいろいろと感想をお寄せ戴きました。

我家でも調理して味見してみました。子どもは「今日の給食はなんね」と聞いて好きな献立の日は楽しんで登園する。一方嫌いなメニューの日などはいい顔しない。等々……様々な感想が出てきました。食事は毎日のことですから特におかあさま方は大変でしょうが子どもも楽しみにしています（勿論子どもだけではありません）。

給食センターもみなさまの反応を楽しみにしております。二、三例を挙げてみます。



バランスよく

図書館貸出に新システム導入

【新着本案内】

★水曜日の朝、午前三時
★八月の路上に捨てて
★沖で待つ ★永遠

第二の人生はこれから

ここに、こんな人が……



自宅前にて

勤めている時は、一日でも早く辞めて二人三脚のんびり旅行でも思っていました。すると退職を待っていたかのように、農業委員の委嘱を受けて職責の重大さを感じましたが大変勉強になりました。というこ



とでした。委員を三期終わろうとしていた矢先に中尾区長を引き受けてしまい念願の二人三脚の旅行は縁遠くなってしまうと、と笑いながら語っておられました。

谷口さんは趣味も多くてカラオケやダンスなどで楽しんでおられます。ダンスは数年かけて十種目をマスターされてグループ（約十名）で活動されています。八代市あたりの発表会にも参加されて楽しんでおられるそうです。そんな多趣味のなかに、十八年度から、中尾地区福祉住民ネット・

ワーク・ショップ事業に地区老人会長と共に子ども会から老人会までお世話をされて益々多忙のようでした。



随筆 ひとり一人の表情をみつめて

鶴山弘子（平国小教頭）

「おはようございます。」朝七時三十分過ぎる頃、登校し始めてきた四十八名の児童たちの元気な声が響いてきます。僅か十分ほどの間にほとんどの子どもが登校してくる平国小学校です。低学年の子どもは必ず職員室のドアを開けてあいさつをします。つかれてくる表情、何か気になることがある表情、うれしくてたまらないという表情。一人一人の表情はそのときの気持ちを物語っています。

この光景を毎日目にしていると、朝、子どもを気持ちよく登校させる事がとても大切だということを感じます。ずっと以前、五年生を担任したとき、その学年六クラスの子どもたちに家で自分に対してかけられる言葉を調査してみたことがあります。その結果、一番多かったのは、「早くしなさい」の「早く」だったと

思います。追い立てるようには急がせているのは親だけではなく学校でもあり得ます。穏やかな笑顔で生活するのとちよつとかけ離れた「早く」。使わないために

は、自分自身が余裕を十分持つ事なのかなと思います。家庭でも教室でも職員室でも、早くしなさいとなく……自分にも言い聞かせなくてはいいけません。

あいつの後、子どもたちは、職員室前の水槽のグッピーをのぞき込み、赤ちゃんグッピーを見つけて大騒ぎです。早く別に移さないと親グッピーに食べられるのです。あわててランドセルを教室に置き、網片手に赤ちゃんグッピーすくいが始まります。平国小学校の一日のスタートです。今日も元気な明るい子どもたちの声が響き渡ります。

短歌

本郷武雄選

肥後狂句

つなぎ短歌会
暖冬に雪も降るなき元旦を
古りたる家に雑煮祝ふも
西 滋子
枯れ色の阿蘇の草原霧こめて
たまゆら見ゆる放牧の牛
寺本ツルヲ
八つで花咲きて師走の風寒し
早やひとせのめぐり来たりて
加来 道子
病室に雪の行方を追ひながら
ひたすら揉みぬ夫の足裏を
野田 渚子
「かぜにのればとぶよ。」
といました。ぼくのはと
びませんでした。でも、あ
とでどんだんぼくのたこは、
たかくとびました。みんな
のもよくとんでいました。
いえにかえって、いえに
あるたこであそびました。
たこつておもしろいんだな
とおもいました。

たこをあげたよ

津奈木小1年生



いさ山



ともか

わたしは、よくとんでいました。たこは、空のちゅうで、かぜがなくたっておりました。でも、またかぜが、ふいてきたら、たこがあらなくなりました。わたしは、とてもうれしくなりました。

ぼくは、金よう日たこをあげました。しゅんたくんのかこが、山をおいこすぐらいたかくとんでいました。ぼくは、しゅんたくんに、「どうやって、そんなにたかくとぶの。」といいました。しゅんたくんが、

「かぜにのればとぶよ。」といました。ぼくのはとびませんでした。でも、あとでどんだんぼくのたこは、たかくとびました。みんなのもよくとんでいました。いえにかえって、いえにあるたこであそびました。たこつておもしろいんだなとおもいました。